

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 27 年 12 月 3 日 (2015.12.3)

【公開番号】特開 2014-103441 (P2014-103441A)
 【公開日】平成 26 年 6 月 5 日 (2014.6.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-029
 【出願番号】特願 2012-252203 (P2012-252203)
 【国際特許分類】

H 0 4 M 1/03 (2006.01)

H 0 4 M 1/00 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 M 1/03 C

H 0 4 M 1/00 R

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 10 月 20 日 (2015.10.20)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

イヤホンジャックと、前記イヤホンジャックを通じて通話が行われるとき、前記イヤホンジャックを通じない音声制御とは異なる音声制御を行う制御部とを有することを特徴とする携帯電話。

【請求項 2】

軟骨伝導部を有し、前記制御部は、前記イヤホンジャックへの出力と前記軟骨伝導部への出力において異なるイコライズを行なうことを特徴とする請求項 1 記載の携帯電話。

【請求項 3】

前記制御部は、前記イヤホンジャックに対し 20 kHz までの広域に渡る気導音イコライズを行なうとともに、前記軟骨伝導部には 7 kHz までの軟骨伝導イコライズを行なうことを特徴とする請求項 2 記載の携帯電話。

【請求項 4】

前記イヤホンジャックを通じて通話がおこなわれるとき、前記制御部は前記イヤホンジャックに対し 7 kHz までのイコライズを行なうことが可能であることを特徴とする請求項 3 記載の携帯電話。

【請求項 5】

外耳道閉鎖状態を判定する判定手段を有し、前記制御部は前記判定手段が外耳道閉鎖状態であることを判定したとき出力音声に自声をキャンセルする信号を重畳することを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載の携帯電話。

【請求項 6】

前記イヤホンジャックを通じて通話がおこなわれるとき、前記判定手段が外耳道閉鎖状態であると看做して前記イヤホンジャックへの出力音声に自声をキャンセルする信号を重畳することを特徴とする請求項 5 記載の携帯電話。

【請求項 7】

軟骨伝導部と、イヤホンジャックと、前記イヤホンジャックへの音声信号の出力と前記軟骨伝導部への音声信号の出力において異なるイコライズを行なう制御部とを有することを特徴とする携帯電話。

【請求項 8】

前記制御部は、前記イヤホンジャックへの音声信号の出力に対し 20 kHz までの広域に渡る気導音イコライズを行なうとともに、前記軟骨伝導部への音声信号の出力においては 7 kHz までの軟骨伝導イコライズを行なうことを特徴とする請求項 7 記載の携帯電話。

【請求項 9】

イヤホンジャックと、前記イヤホンジャックを通じて通話がおこなわれるとき、イヤホンジャックへの出力音声に自声をキャンセルする信号を重畳する制御部とを有することを特徴とする携帯電話。